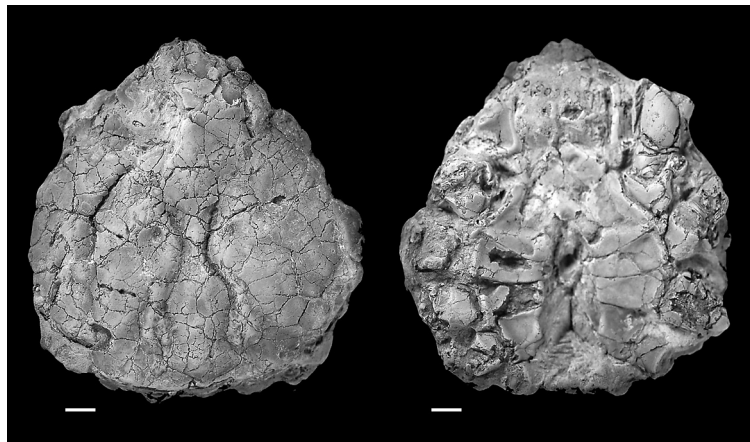


瑞浪市化石博物館研究報告第 44 号概要 —掲載論文の紹介—

アメリカ合衆国，メリーランド州の中新統産モガニ類 *Libinia marylandicus* palmer, 1935 の忘れられた模式標本の発見と *Libinia* 属の再検討

……………1600 万年前のアメリカ合衆国には *Libinia* 属が 4 種もいた

1935 年に Palmer によってアメリカ合衆国メリーランドの中新統から新種として報告された *Libinia marylandicus* (リビニア・メリーランドィカス) の模式標本は、長い間その所在が不明でした。最近その標本が見つかりスミソニアン国立自然史博物館に寄贈されました。2016 年に新種として記載された *Libinia amplissimus* (リビニア・アンプリッシウム) と詳細な比較を行った結果、明らかに異なる特徴を見出しました。また、これまでに同じ産地から採集され、スミソニアン国立自然史博物館などに保管されている *Libinia* 属を調査した結果、新たに *L. emarginata* (リビニア・エマギナータ) と *L. dubia* (リビニア・デュビア) が識別されました。

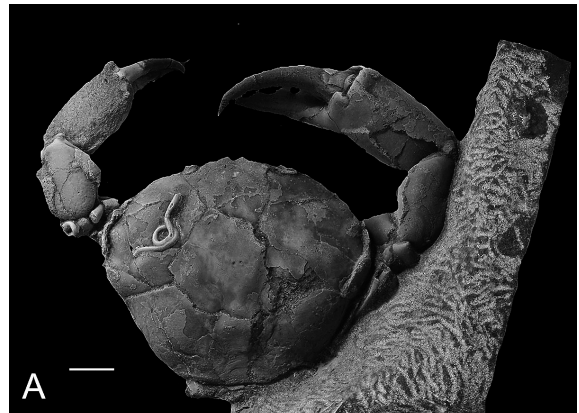


Libinia marylandicus の模式標本 (スケールは 1 cm)

アメリカ合衆国，オレゴン州とワシントン州の前期～中期新生代産カニ化石の表面を覆う付着生物からカニの身づくろい行動の推定

……………化石となったカニの身づくろい行動に関する研究

カニ類は、殻の表面に付着生物が固着すると身づくろい行動をします。アメリカ合衆国オレゴン州とワシントン州の新生代前期の地層からは、甲羅や腕の表面に付着生物が固着した状態のカニ化石がしばしば見つかります。それらの化石を詳細に観察した結果、甲羅を横切るように付着生物が固着した化石は、脱皮殻の場合が多いことが明らかになりました。また、遊泳脚を持ったカニ類の方が、遊泳脚を持たないカニ類に比べ、身づくろい活動が活発であったと推定されました。



甲羅や腕にフジツボなどの付着が見られる *Pulalilus vulgaris* (プラリウス・ブルガリス) (スケールは 1 cm)

佐賀県^{さしか}の古第三系杵島層群からヤドカリ類（十脚目：異尾下目）2新種の発見

……佐賀県の3200万年前の地層からヤドカリ類の2新種が発見される

佐賀県に分布する前期漸新世^{ぜんしんせい}の地層、杵島層群^{きり}佐里砂岩部層（約3200万年前）からヤドカリのハサミの化石2点が発見されました。詳しい鑑定の結果、それぞれがヒメヨコバサミ属の新種であることが明らかになり、*Pagristes michikoeae*（和名：ミチコヒメヨコバサミ）と *Pagristes teruakii*（和名：テルアキヒメヨコバサミ）と名づけられました。



左：*Pagristes michikoeae*、右：*Pagristes teruakii*（スケールは5mm）

中新統^{びほく}備北層群産モクズガニ科（十脚目：短尾下目）の1新属新種および1新種の記載

……岡山県と広島県の地層からモクズガニ類の1新属新種と1新種が発見される

岡山県から広島県にかけて分布する備北層群（2000万年前～1500万年前）から2種のモクズガニの仲間のカニ化石が発見されました。岡山県新見市から発見された種は新属新種であり、*Sakakurapus kogisorum*（和名：コギソサカクラガニ）と名づけられました。一方、広島県三次市^{みよし}から発見された種は新種であり、*Asthenognathus sakumotoi*（和名：サクモトヨコナガモドキ）と名づけられました。

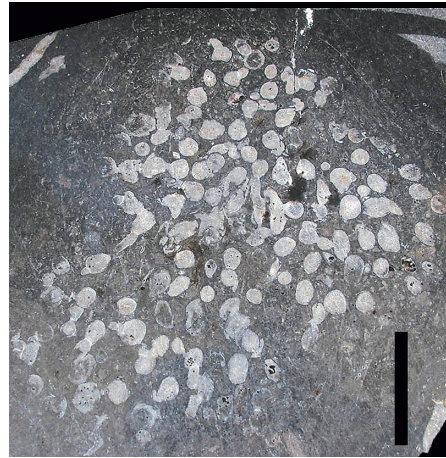


Sakakurapus kogisorum（スケールは5mm）

オランダ、ライデン市の建築石材（石炭紀前期：ミシシッピ紀）中に保存された サンゴ化石の産地、形態、古生態

……………オランダ、ライデン市内の石灰岩中のサンゴ化石はベルギー産

オランダのライデン市の建築物に使用されている石灰岩中から見つかったサンゴ化石の鑑定が行われました。鑑定の結果、4属 (*Michelinia* 属、*Syringopora* 属、*Siphonodendron* 属、*Zaphrentites* 属) が識別されました。このうち2属は種まで特定でき、それらは *Siphonodendron martini* と *Zaphrentites delanouei* に同定されました。またこれらの属の検討結果により、市内建築物で使われている岩石の大部分はベルギーの Ourthe 層（石炭紀前期：約3億5千万年前～3億4千万年前）からもたらされたものであることが明らかになりました。

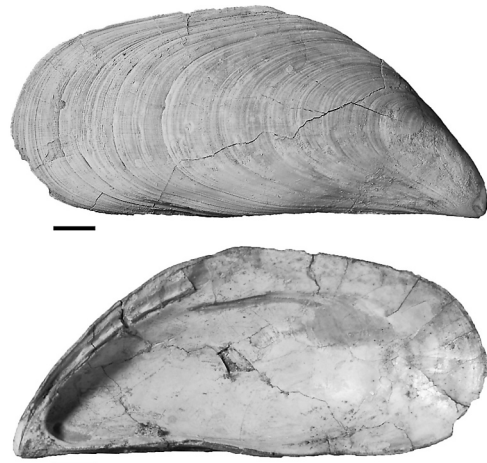


ライデン市の石材中から発見されたサンゴ化石
Siphonodendron martini
(スケールは5 cm)

恵那市に分布する下部中新統岩村層群から産出した巨大な“イガイ属” (二枚貝綱：イガイ科) の鑑定

……………恵那市岩村町の約1800万年前の地層から見つかったイガイはエゾイガイだった

岩村層群（恵那市南部に分布）と瑞浪層群（瑞浪市に主に分布）からこれまでに採取され、*Mytilus coruscus*（イガイ）と鑑定されていた二枚貝を再鑑定した結果、^{かくひょう}殻表に成長線と細かな縦肋があるなどの特徴から現生種 *Crenomytilus grayanus*（エゾイガイ）であることが明らかになりました。本研究により、エゾイガイは少なくとも1800万年前には地球上に出現していたことが明らかになりました。また、瑞浪北中学校敷地造成工事現場（瑞浪層群明世層）から採取されたイガイ類も鑑定の結果エゾイガイであることが判明しました。



Crenomytilus grayanus (スケールは1 cm)

滋賀県の鮮新統古琵琶湖層群堅田層産カワニナ属（軟体動物門：新生腹足上目：カワニナ科）の5新種の記載

……滋賀県の約120～50万年前の地層からカワニナ属の5新種が発見される

滋賀県に分布する古琵琶湖層群堅田層から発見され、1981年に報告されたカワニナ属化石の詳細な観察を行った結果、5種の新種が発見されました。これらの新種は、それぞれ *Semisulcospira (Biwamelania) nakamurai*、*Semisulcospira (Biwamelania) pseudomultigranosa*、*Semisulcospira (Biwamelania) spinulifera*、*Semisulcospira (Biwamelania) kokubuensis*、*Semisulcospira (Biwamelania) pusilla* と名付けられました。



Semisulcospira nakamurai (スケールは1 cm)

瑞浪市に棲息する陸産貝類と淡水産貝類

……岐阜県瑞浪市に64種類の陸生貝類を確認

岐阜県瑞浪市には64種類の現生種の貝類が棲息していることが分かりました。このうち、カタツムリ、デンデムシやマイマイと呼ばれる陸上で生活する陸産貝類は46種類、タニシやカワニナなど川や池のような水中で生活する淡水産貝類は18種類発見されました。特に日吉町と釜戸町には、全国で準絶滅危惧種に指定されているオオギセルやナガオカモノアラガイなどの陸産貝類とマツカサガイやトンガリササノハガイなどの淡水産貝類が生き残っていました。



左：ナガオカモノアラガイ（スケールは1 cm）、右：マツカサガイ（スケールは2 cm）

※特別号の各論文については「瑞浪北中学校敷地造成工事現場（瑞浪市土岐町）に露出した下部中新統瑞浪層群明世層から産出した化石」でまとめられています。